

# 上智大学アンコール遺跡国際調査団の活動概要 (2000年～2001年)

石澤良昭

上智大学アンコール遺跡国際調査団は、1980年以来カンボジア王国政府（文化芸術省・APSARA）と協力し「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」を哲学に掲げ、アンコール遺跡の調査・研究・修復保存活動を続けています。2000年度は3回にわたる調査団を現地に派遣し、以下の調査研究活動等を実施いたしました。2001年度も同様の活動を計画中でございます。

## 1. 調査団の派遣

- ・第29次調査団（2000年2月15日～3月31日。46日間）
- ・第30次調査団（2000年6月10日～9月5日。89日間）
- ・第31次調査団（2000年10月22日～12月31日。71日間）
- ・第32次調査団（2001年2月3日～4月15日。71日間）
- ・第33次調査団（2001年8月1日～9月15日。46日間）
- ・第34次調査団（2001年11月10日～2002年1月10日。62日間・予定）

## 2. 調査研究にご協力いただいている関係機関

カンボジア王国政府文化芸術省、王立芸術大学、プノンベン大学、アプサラ（アンコール地方遺跡整備機構）、シェムリアップ州、フランス極東学院（パリ）、ユネスコ（カンボジア）、ワールド・モニュメント・ファンド（ニューヨーク市）、奈良国立文化財研究所、日本大学、東北工業大学、帝塚山学院大学、金沢大学、奈良女子大学、京都府立大学、早稲田大学政経学部、酒井幸法律事務所、大阪市文化財協会、有田町歴史民俗資料館、東北大学、小杉石材店

## 3. 現地における調査団の主な活動

- (1) 建築班：アンコール・ワット西参道修復工事（アプサラと共同事業）、バンテアイ・クデイ遺跡のレベル定点測定 of の継続、アンコール遺跡開口部調査、遠隔地5大遺跡建築学予備調査、ベンメリア遺跡の予備調査、サンボール・ブレイ・クック遺跡群の予備調査など
- (2) 地質班：バンテアイ・クデイ遺跡の地下地盤の砂岩調査、共振法による石材診断、ヘリコプターによるカンボジア地形調査、遠隔地5大遺跡地質調査、シェムリアップ川の流域扇状地の地質調査、トンレサップ湖の形成調査
- (3) 考古班：バンテアイ・クデイ遺跡のインベントリー補充調査、D08遺跡の実測図研究、東参道脇小祠発掘調査、遠隔地5大遺跡考古学予備調査、サンボール・ブレイ・クック遺跡群の調査研究など
- (4) 窯跡班：B1窯の発掘調査・研究、B4窯のトレンチ調査、出土品の整理・目録作成・公式

報告書作成・窯跡保存公開事業（奈良国立文化財研究所と共同事業）、ブノン・クレーン丘陵の窯跡地調査、窯跡発掘のための中堅幹部人材養成プロジェクト

- (5) 水利環境班：歴史水利都市調査研究、シムリアアップ川水質検査、トンレサップ湖水質検査、ブオック川・ロリュオス川流域調査、トンレサップ湖浮稲調査など
- (6) 村落・社会班：5 ブームにおける農村調査、老人の社会活動参画プロジェクト、文化遺産教育、国立公文書館の教育関係資料調査、カンボジア社会復興調査・フランス植民地下のカンボジア社会研究、アンコール遺跡保存政策研究など
- (7) 民話・伝統文化班：村落の口承伝承調査研究、寺院壁画調査研究、民話絵本（2000年11月出版）および民話を小学生の副読本として作成するプロジェクトなど
- (8) 遠隔地文化遺産調査班：コーケー、コンボンスヴァイ・ブリヤカーン、サンボール・ブレイ・クック、ベンメリア、バンテアイ・チュマール、ブリヤ・ヴィヘア等
- (9) 小学校リユック・ミッション班（ボランティア団体と共催）：シムリアアップ州小学校へ手作りリユック・サック寄贈プロジェクト（鉛筆、ノート、消しゴム、サンダル、定規など封入）

#### 4. 人材養成プロジェクト（人的資源開発、地域住民啓発プロジェクト）

- (1) 学位取得のための大学院教育プログラム：

Ly Vanna：男、王立芸術大学考古学部1995年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Hor Sukuntheory：女、王立芸術大学考古学部1996年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

- (2) 2000年度神奈川県海外技術研修事業

Chhean Ratha：男、王立芸術大学建築学部1996年卒業、コンピューターによる製図研修  
期間：2000年5月～2001年3月、場所：神奈川県国際研修センター

Som Visoth：男、王立芸術大学考古学部1997年卒業、遺跡博物館研修  
期間：2001年5月～2002年3月、場所：神奈川県国際研修センター

- (3) アンコール遺跡における専門研修プログラム（1998年～現在）

Lœung Ravatthey（女、考古学研修生）、Som Visoth（男、考古学研修生）、Lam Sopheak（男、考古学研修生）、Nuon Mony（男、考古学研修生）、Tin Tina（男、考古学研修生）  
Chahan Ratha（男、建築学研修生）、Mao Sokny（男、建築学研修生）、Tat San Huot（男、建築学研修生）、ほかに石工研修生17名

研修場所：上智大学アンコール研修所（シムリアアップ市）

- (4) アジア・ユース・フェロースhip（AYF）プログラム（日本国外務省）

Ek Bunta：男、上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程卒業、現職 王立芸術大学講師

- (5) 文部省国費外国人留学生

Keo Kinal：男、東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻研究生

Nhim Sutheavin：男、王立芸術大学考古学部1996年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程

- (6)「上智大学アンコール研修所」への長期研修生の受け入れ（考古学・建築学 計18名、石工17名）
- (7)村人・小学生を対象としたバンテアイ・クデイ遺跡の発掘現場説明会の開催（1999年3月、12月、2000年3月、8月の4回）
- (8)アンコール・ワット清掃ボランティア（クリーニング・オペレーション。日本・カンボジア両国の学生研修事業）の実施。第1回1999年8月22日～30日（35名参加）、第2回2000年8月25日～31日（28名参加）、第3回2001年8月26日～30日（21名参加）。

## 5. 日本におけるシンポジウム・報告会等の開催

- (1)第1回「アンコール・ワット国際シンポジウム」共催行事（2000年2月19日）
- (2)第7回「アンコール遺跡を科学する」（活動報告シンポジウム）主催行事（2000年2月26日）
- (3)国際シンポジウム「アジアにおける歴史水利都市と文化遺産—巨大遺跡を農業と「水」のかかわりから検証する—」主催行事（2000年9月19・20日）
- (4)国際シンポジウム「アジアの文化遺産と21世紀—遺跡保存現場から文化遺産学に向けて—」主催行事（2000年9月21・22日）
- (5)第8回「アンコール遺跡を科学する」（遠隔地5大遺跡調査・研究活動報告シンポジウム）主催行事（2001年4月21日）

## 6. 出版物・報告書の刊行

- (1)石澤良昭・坪井善明・遠藤宣雄共編『カンボジアの文化復興』第1号～第17号（1984-2000）
- (2)『アンコール遺跡を科学する』No.1-8（1994-2001）
- (3)盛合禧夫編『アンコール遺跡の地質学』（「アンコール・ワットの解明」第2巻）、連合出版、2000年4月
- (4)中尾芳治『アンコール遺跡の考古学』（「アンコール・ワットの解明」第1巻）、連合出版、2000年4月
- (5)坪井善明編『アンコール遺跡と社会文化発展—遺跡・住民・環境—』（「アンコール・ワットの解明」第4巻）、連合出版、2001年3月
- (6)片桐正夫編『アンコール遺跡の建築学』（「アンコール・ワットの解明」第3巻）、連合出版、2001年3月
- (7)石澤良昭・荒樋久雄・丸井雅子共著『アンコール・ワットへの道』、JTB出版部、2000年2月
- (8)レイ・タン・コイ『東南アジア史』（新增補版）（石澤良昭訳）、白水社、2000年4月
- (9)公式報告書の作成『バンテアイ・クデイ遺跡 報告書』（仮題）（2002年）
- (10)公式報告書の作成『タニ村窯跡調査報告書』（仮題）（2002年）